

いつどこでも
全員でがんばり続けよう
正念場決戦を前に
幕張支部大会開かる



十月十八日、幕張支部は、第九回定期大会を五〇名をこえる代議員・傍聴者の結集を勝ちとり開催しました。

「暗雲きりさく光」
これからが正念場」

大会は、白井副支部長の開会宣言につき、浅野修一氏を議長に選出しはじめられました。

冒頭、滝口支部長があいさつにたち、「動労千葉は昨年十一月以降、二波のストライキを総ゆる反動をのりこえて闘い取り、今日も満身創いになりながらも、不屈・不退転に闘いぬいてきました。こうしたなか、国労臨時全国大会に示されたように、ようやく暗雲を突き破って光が差しはじめてきました。いよいよこれからが正念場です。いだいている不安・なやみ等を出し合い全員で議論をつくし、その結果として闘う運動方針を満場一致で承認・可決してほしい」と述べました。

山口副委員長からは、全国情勢、団交等を含めた提起がなされました。続いて、石幡書記長が、今秋国鉄決戦の重要性を柱とする運動方針案を、熱弁とところどころにユーモアまじえながら提起し、第三波ストライキをも展望した闘いに決起しようとして強調しました。

当局の「安全無視」を弾劾
会計報告、支部互助会報告ののち、質

疑応答に入り、質疑の中では、今十月十二日に安全無視の合理化が原因で発生した電車区洗場線における重大傷害事故（組合員・検査係Aさん・四三才、ろっ骨骨折・全治三カ月）について代議員から怒りに満ちた弾劾の声が発せられ、区当局に対する真相究明・改善・謝罪要求が訴えられました。

また、他の代議員からは、「四月一日以降、動労千葉はどうなるのか」「闘いは闘争時だけに限らず、いつでもどこでもやりぬこう」「広域配転阻止・人活粉碎でがんばろう」等々が述べられました。全員一丸となつて「第三波」を闘う

乗務員・検修・事務の各分科会、自動車車検班・青年部からもそれぞれの闘いの予定・報告・決意表明がされ、これらを受けて滝口支部長、山口本部副委員長がそれぞれ支部・本部答弁を行い、三時間半をこえる質疑を終えていきました。方針案・予算案・スローガンを満場一致で可決し、最後に滝口支部長の団結ガノンパローで閉会しました。

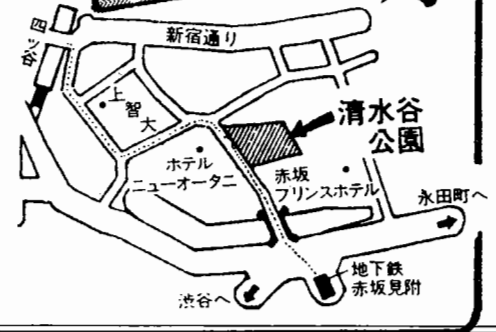
なお、二〇日には、大会決定に基づき事故問題に対する謝罪要求を骨子とする「申入れ」を書面をもつて区当局に行いました。（幕張支部通信員・発）

国鉄法案強行成立阻止 分割・民営化絶対反対

10・30 労働者総決起集会

▼とくろ 東京・清水谷公園 集会・国会デモ
▼とき 10月30日（木）午後6時
▼主催 国鉄労働者全国交流会議 国鉄千葉動力車労働組合

動労千葉の順法闘争に呼応し
全国で実力反撃にたとう



全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ